

日 時 2019年12/15(日) 13:00~16:00

会 場 名古屋市獣医師会館

講 師 小林 哲也 先生

JVCOG(一般社団法人日本獣医がん臨床研究グループ)代表理事  
日本小動物がんセンター センター長

藤田 淳 先生

公益財団法人日本小動物医療センター  
東京大学 日本小動物外科専門医

参加費 5,000円(税込)

オリジナルピンバッジを差し上げます。

※キャットリボン運動の活動資金として寄付されます。

お申込み 右記QRコードを読み取り、応募  
方 法 フォームからお申込みください。

<https://forms.gle/JmoHXTLKLqLBJQpM9>



講演内容 猫の乳腺癌 ベーシックレクチャー

猫の3大悪性腫瘍のひとつである乳腺癌。猫の乳腺部に発生した腫瘍の約80%が乳腺癌であることはよく知られていますが、初診時のリンパ節転移率が20~40%にも及ぶことは、あまり知られていません。また、腫瘍の大きさが重要な予後因子であることも有名ですが、小さくても早期に転移を引き起こし、期待するほど長期生存できない個体も存在します。それらの違いは何か? ベーシックレクチャーでは猫の乳腺癌の疫学や診断法に加え、治療に影響を与える予後因子を深く読み込んでいきます。また、猫の乳腺癌に対し化学療法の効果はどの程度明らかになっているのか、そして、化学療法の適用ガイドラインについても解説します。

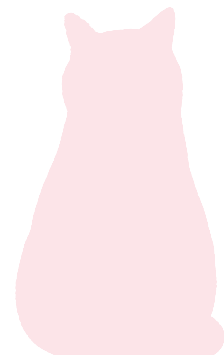
猫の乳腺癌 アドバンスレクチャー

乳腺を片側切除すれば、鼠径リンパ節は自動的に摘出されます。しかしながら、鼠径リンパ節は猫の乳腺癌摘出時に注意しなければならない4つのリンパ節のひとつに過ぎず、鼠径リンパ節の他に、副鼠径リンパ節、腋窩リンパ節、副腋窩リンパ節への転移にも注意を払う必要があります。でも、それらを術前にどう評価すればいいのか。腋窩リンパ節の摘出は敷居が高いのか。アドバンスレクチャーでは、乳腺癌が転移しやすい体表リンパ節の超音波による評価法に加え、乳腺片側切除する際の体表リンパ節の具体的な術式について解説します。



キ ャ ャ ャ  
リ ボ ン  
テ イ レ ク  
チ ャ ー

乳がんて苦しむ猫をゼロにする。



主催



一般社団法人  
日本獣医がん臨床研究グループ  
Japan Veterinary Co-operative Oncology Group

後援

■ 公益社団法人 愛知県獣医師会  
■ 公益社団法人 名古屋市獣医師会

協賛

■ ソエティス・ジャパン株式会社  
■ 株式会社 V and P